２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL.２７

乳児保育研修（乳児・３歳児未満児研修）　　受講者数　１７７名

日時　令和３年１０月１日（金）～１０月２２日（金）　オンデマンド研修

講師　日本体育

大学　児童スポーツ教育学部　准教授　齊藤　多江子氏

【内　容】

～今大切にしたい乳児保育を学ぶ～

児童福祉法や保育所保育指針、幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿など、教育・保育の基本を丁寧に読み解きながら、乳児保育に大切な基本的なことの学びを深める。

【受講者の感想】

＊　研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

・児童福祉法を中心に保育所保育指針や５領域など、かみ砕いて説明してくださったことから、より具体的に保育について考えることができた。パワーポイントでは重要視されているところなどの色彩を変えてあったので自分なりにメモをとり、まとめることができた。

・保育所保育指針の改定の目的や今後行っていくべき保育を改めて考える機会となり、受けて良かったと感じた。分かりやすく図が用いられており理解しやすかった。手元にある足立っ子すくすくガイドにたくさん保育のヒントがあり、活用していきたいと思った。

・幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿は到達目標ではないということ、また５歳児クラスの先生だけがわかっていれば良いわけではない事を学び、０歳～５歳までの流れを考え、１歳児として現在できることを探し、無理なく進めていく大切さを感じた。

・言葉を豊かにするためには、ただ話しかけるのではなく子どもが興味をもったことに大人が注意を向け言葉をかけていくことが大切であると分かった。語彙の増加や言葉の使い方の適切さばかりを気にするのではなく、大人が子どもにとって自分の気持ちを伝えたいと思える存在になっているかが重要であることが分かった。

・他児が持っている玩具に興味をもって取ろうとしたり、髪を引っ張ろうとしたり噛みついたりすることが出てくるが、その子の性格として捉えるのではなく発達の段階であり、重要なプロセスであると考えていくことを学んだ。

＊　ご意見・ご感想

オンデマンド研修だったので、一度止めてメモを取ったり、繰り返し話を聞くことができ、とても良かった。会場に行くのではなく、職場で受講することができ、一定の期間が設けられていたことも良かった。

２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL.70

幼児教育研修（年齢別運動あそび　０・１歳児）　　受講者数１２６名

日時　令和４年２月１日（火）～２月８日（火）オンデマンド研修

講師　東京女子体育大学　児童教育学科　　講師　堀内　亮輔氏

【内　容】

～発達の特徴を踏まえた運動あそび～

０歳児・１歳児の発達特性と経験しておきたい遊び（動き）について学ぶ。

【受講者の感想】

＊　研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

・　０歳児の細やかな運動発達がどのような段階を踏んで育っていくのかということが、とてもよく分かった。幼児の運動能力の低下の原因として、身体的活動量が減少していることや基本的動作が未習得であるという講義から、やはり乳児期の様々な経験の積み重ねが重要であると改めて感じた。

・　子どもにとって心地よい生活を考えていくことは、運動発達にもつながっていくことを学んだ。応答的な関わりや生理的欲求を満たしていく中で築かれる愛着を大切にしながら、子どもの姿を捉え、何に心を動かされているのかをみとり、環境構成に活かしていきたい。

・　幼児期に多様な動きが経験できるようになるためには、０歳児から発達段階に応じた運動経験を積み重ねていくことが大切であることを学んだ。

・　子どもに動きを獲得させるのではなく、子ども自身の心が動き「やってみたい」と思える環境づくりや保育者の関わりが重要であることを学んだ。子どもがやってみたいと思える環境を整えて、保育者も一緒に遊び、共感していきたい。さらに、子どもにどのような動きを経験させたいかという部分も意識して環境を工夫していきたい。

・　遊びの必要条件である時間・空間・環境に加え、保育者の関わり方一つで子どもに多様な動きを促すことができることを学んだ。日々関わっている保育者が子どもたち一人一人の成長の過程をしっかり見ていくことの大切さを改めて感じた。

・　子どもの目に入るものは、保育者や他児を含めてすべて大切な環境であると感じた。遊びの必要条件である時間・空間・環境として、高さや色、素材なども見直していきたい。

・　ハイハイをしないことで、今後いろいろな弊害があるのではないかと思いがちだったが、子どもの様子をよく観察し「これをさわってみたい」「あそこにいってみたい」という思いを大切にし、それが叶うよう援助していくなど、子どもの好奇心を支え見守っていくことが大切だと学んだ。

・　３６の動きを保育の中で意識すると、押す・ひっぱる・つかむ等の動きを経験できていないことに気づくことができた。今までの遊びの幅を広げていきたい。後ろ歩き・横歩き・坂道をのぼるなど、歩く動きのバリエーションがとても参考になった。

・　待たせる保育ではなく、子どもが自由に楽しく体を動かすことのできる時間の確保が大切だということを学んだ。

・　危険だからやらないのではなく、どのようにしたら安全に行えるかを考えていこうと思う。子どもが様々な遊びの中で、たくさんの動きを楽しみながら習得できるような環境づくりを実践していきたい。

２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL.58

幼児教育研修（年齢別運動あそび　２歳児）　　受講者数６４名

日時　令和３年１２月７日（火）　１５：００～１７：００

場所　竹の塚地域学習センター　４階ホール

【内　容】

～発達の特徴を踏まえた運動あそび～

２歳児の発達特性と経験しておきたい遊び（動き）について学ぶ。

講師　堀内先生

【受講者の感想】

＊　研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

・　身体活動量の減少や基本的動作の未習得などが原因で子どもたちの運動能力が低下していることを学んだ。２歳児ならではの発達特徴に合わせて楽しめるような環境や遊びを提供し、保育者も子どもと一緒に遊び、楽しさを共有してコミュニケーションを取っていきたい。

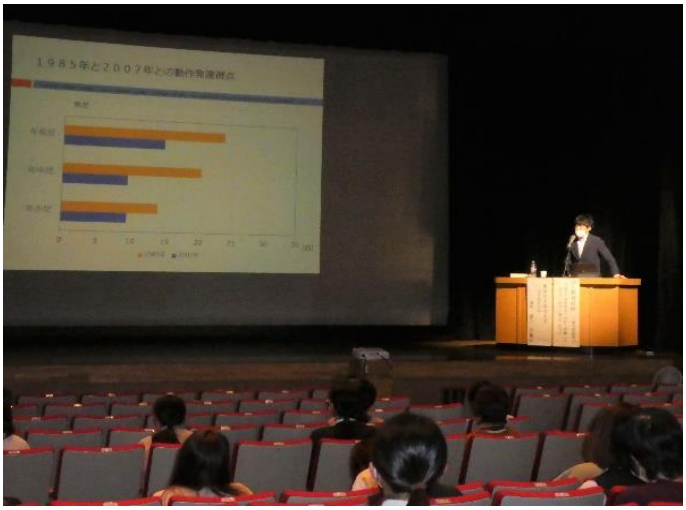
・　姿勢を保てるようになったからこそ、姿勢を崩すことが面白いという２歳児の特性を学んだ。この崩しの経験や自分の体を知る（ボディイメージ）経験が大切であることも学んだ。室内外共に楽しく体を動かせるよう、保育の中で工夫を重ねていきたい。

・　子どもは遊びを通して様々な動きを学んでいるので、保育者が先回りしてあまり指示を出しすぎないよう気をつけなければいけないことを学んだ。今後、子どもたちがどのような動きをしてどのように遊んでいるのかをしっかり見ていきたい。また、２歳児の興味や関心に応じてジャンプ、しゃがむ、くぐるなどいろいろな動きを経験できるよう環境を設定していきたい。

・　特定の動きを獲得させるのではなく、多様な動きに焦点を当て、それらが経験できる様々な遊びを取り入れることや発達にあった遊びを提案することが大切だと学んだ。一人一人の遊びの様子からどんな動きが少ないのかを見取っていき、遊びの中で楽しみながら様々な動きを経験できるよう工夫したい。

＊　ご意見・ご感想

・　コロナ禍での研修で難しいが、実際に体を動かして体験したい講義内容であった。

・　模倣遊びなど、明日の保育にすぐ取り入れることができる具体的な遊び・動きがありとても参考になった。

・　周囲の保育士との意見交換で、他園の取り組みなどから新たな発見があり、とても楽しく分かりやすい研修だった。